

議案質疑答弁
(予算決算常任委員会付託案件)

令和5年6月定例会

議案第64号 令和5年度甲賀市一般会計補正予算(第3号)

質疑

歳入において、市税の「固定資産税(現年度分)」について、当初予算7,414,000千円に対して、今回、70,000千円増額されているが、予算編成時と比較するとどのような要因が考えられるのか。

コロナ禍や不安定な世界情勢などにより、国内の景気動向は先行き不透明な状況が続いていたことから、税収全体へのそうした景気動向の影響については、予算見込額と当初調定額に大きな乖離が生じないように留意したところであります。予算を作成する段階で景気動向に最も影響を受けるのは、本市の場合、製造業の占めるウエイトが大きいため、法人市民税と固定資産税の償却資産分であります。これらの影響分を見込むのは極めて困難であったため、土地分の工業団地や住宅地、太陽光発電用地等の新規開発分の税収増を見込まないこと等により、税収の予算割れのリスク回避をしていたところであります。

しかしながら、当初の調定におきまして、懸念しておりました税収の落ち込みもないことから、現段階での税増収分を補正計上したものであります。